

[横浜市長浜ホール]
令和6年度業務計画及び収支予算
[横浜メディアアド・相鉄・神奈川共立 共同事業体]

※ 文中の事業欄において、
●：主催事業 ○：共催事業
を示します。
※ 文中の達成指標欄において、
□：定量的指標 ■：定性的指標
を示します。

1 施設の概要

施 設 名	横浜市長浜ホール
所 在 地	横浜市金沢区長浜114-4 長浜野口記念公園内
構 造 ・ 規 模	ホール棟：鉄骨造（一部鉄筋コンクリート造）、地上2階・地下1階 旧細菌検査室：木造平屋建て
敷 地 ・ 延 床 面 積	ホール棟：建築面積544.62m ² 、延床面積984.25m ² 旧細菌検査室：建築面積・延床面積96.69m ²
開 館 日	平成9年5月22日

2 指定管理者

法 人 名	横浜メディアアド・相鉄・神奈川共立共同事業体
所 在 地	横浜市神奈川区栄町5番地1
代 表 者	株式会社横浜メディアアド 代表取締役社長 三浦 彰久
設 立 年 月 日	昭和58年1月22日
指 定 期 間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで
現 指 定 管 理 者 の 管理運営開始日	令和4年4月1日から

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針

横浜市の文化政策の背景、および施設の立地している金沢区の現状を踏まえ、また、当事業体が3期15年にわたり培ってきた実績を鑑み、第4期のビジョン（目指すべき姿）を「文化芸術の力でソリューションと健康と幸福を生み出すホール」と策定しました。コロナ禍にあって、文化施設は「文化芸術が困難な時期にポジティブに立ち向かう方法を提供する場」であることを再認識させられました。文化芸術を活用して地域に交流と活性を創出することが長浜ホールの果たすべき役割であり、存在意義です。そのためには安定的な利用者層を確保し、文化芸術の担い手、理解者を増やすことが必要です。そのことからビジョン実現のためのミッションとして「地域の交流・活性と文化芸術の新たな担い手を創出する」を掲げました。ミッション達成のため、これまでの運営経験とノウハウを活かし、次の6つの方針で長浜ホールの管理運営に取り組みます。

【基本方針】

ビジョン：「文化芸術の力でソリューションと健康と幸福を生み出すホール」

ミッション：「地域の交流・活性と文化芸術の新たな担い手を創出する」

- 方針1 利用者づくりを強化・推進する
- 方針2 歴史的建造物の保存・活用に地域のネットワークを活用する
- 方針3 参加型事業で担い手を育成し、市民の交流を促進する
- 方針4 ユーザビリティの検証と利用者拡大のための各種サービスを検討する
- 方針5 オンラインの環境整備を進める
- 方針6 安全・安心を優先して運営します

(2) 令和6年度の業務の方針

ア 全体について

第4期3年目となる令和6年度は、新型コロナウイルス感染症も第5類感染症に位置付けられ制限緩和に向けた施設運営を心がけます。消毒対策は継続して、安全で安心して利用でき、コンサートに来ることのできる施設像を確立します。ホームページをリニューアルし、アクセスしやすく内容も刷新し情報発信を強化してまいります。新規の事業の展開も考慮に入れて、文化芸術のコンテンツを増やしていく年度を目指します。

イ 使命1 文化芸術の活動と体験の場になる

文化芸術をはじめとした活動の場を市民に提供し、市民自らの活動を支援します。文化芸術の鑑賞機会を市民に提供することで体験の場とし、“使ってみたいホール”“行ってみたい施設”像を確立します。

ウ 使命2 歴史的建造物を活用し魅力を発信するとともに、文化芸術を媒介とし地域の力を結びつける

横浜市認定歴史的建造物である建造物の保存・活用を適切に行い、施設の魅力を発信するとともにさまざまな施設・団体・資源を有機的に結び付け、文化的コモンズの形成に寄与します。

エ 使命3 多様な市民の活動を支援するとともに、次世代を担う文化創造の担い手を育む

市民の活動を支援し、近隣住民をはじめあらゆる人たちに親しまれる施設となるため、社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)の視点も踏まえた市民の文化芸術活動の可能性を広げます。

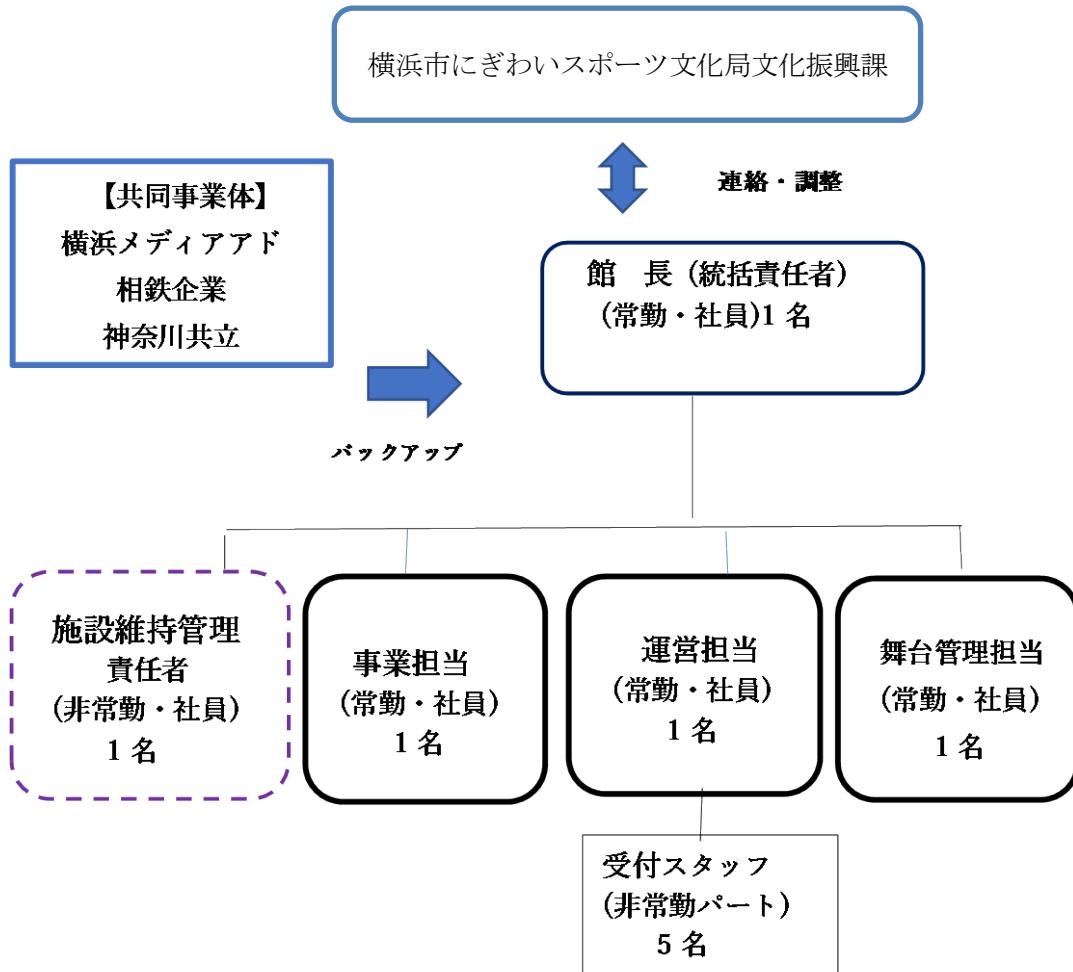
オ 使命4 利用者の視点に立ち、持続可能性を高める施設運営を行う

法令等に則った施設の保守・点検や日常的な予防的修繕などの維持管理を行い、安全で快適な施設を維持します。また、効率的な経費の執行や収入増への取組み等により、安定的かつ利用者の視点に立った施設運営を行います。

力 使命5 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する。

令和5年の異常気象が今後も続くような場合を想定した環境整備を整える修繕などを実施。安全に自主事業及び貸館業務を実施し、市民の文化活動の基盤として施設運営を継続します。

4 運営組織の構造、人員配置



本施設の運営組織は、指定管理施設運営のスペシャリストである横浜メディアアドが統括責任者である「館長」をはじめ、事務系職と文化事業を企画する事業等を担当し、高度で総合的な施設管理のスペシャリストである相鉄企業が施設維持管理や清掃業務を、舞台美術のスペシャリストである神奈川共立が舞台管理を担当します。

3 社の協業体制のもと、各担当職員には文化事業の企画実施・施設運営・施設管理に幅広い知識と実績を持つ人材を配置し、施設の基盤づくりに尽力します。

また、職員と受付スタッフとの協働体制を確立させ、「専門性」と「地域」の力を融合させた組織構造をもって運営にあたります。

5 令和6年度の業務の取組

(1) 文化事業

令和6年度はコンサートやワークショップの拡大に努め、たくさん的人が気軽に来ることのできるイベント開催を重点的に取り組みます。

(2) 集会や講演会利用への施設の提供

令和6年度は利用者、来館者の立場に立ち、ユーザビリティの検証から始め、施設利用の拡大に重点的に取り組みます。

(3) 施設運営

令和6年度は文化施設運営の専門能力を有する職員と地域から登用したスタッフとの共同体制の下、「専門性」と「市民・施設利用者・地域」の力を融合させた組織構造をもって運営にあたり、持続可能性を高める管理運営に努めます。

(4) 施設管理

施設の状態を常に良好に保ち、安全かつ快適に利用することができるよう適切な管理を行います。感染症対策はガイドラインの動向に寄り添いながら、これまで培ってきた知見を最大限活用して実施します。施設及び設備の維持保全及び修繕については、利用者、来館者が安全かつ快適に利用できるよう適宜適切に取り組むとともに、大きな修繕については、横浜市と十分協議を進めながら施設及び設備の長寿命化の視点で計画立案します。

(5) 収支

令和6年度は空き室を少なく、貸館利用者を増やし、指定管理料に依存しない収支構造に取り組みます。

(6) 各種計画書・報告書の作成及び業務評価

令和6年度は、計画書、月報、報告書の具体的且つ簡潔な記載により、分かりやすく業務評価に繋げていきます。

(7) その他

令和6年度は、異常気象と光熱費高騰による支出が多くなると見込まれます。いかに経費削減をするか状況を見ながら取り組みます

※ 5 (1) ~ (7) の具体的な取組内容や指標は、指定管理業務計画表に記載します。

6 使命の指標の達成状況

(1) 使命1 文化芸術の活動と体験の場になる。

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	貸館利用率	ホール	80%	75%	—	—	78%	—
		会議室	23%	47%	—	—	48%	—
		多目的ルーム	54%	59%	—	—	60%	—
		音楽練習室	77%	89%	—	—	90%	—
2	総来場者数	25235 人	34,400 人	—	—	—	35,400 人	—
3	貸館利用者の新規利用率	10%	1年目 +1%	—	—	—	1年目 +4%	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者の状況についての現状把握	R 4 実績	100% アンケート等で現状把握
		R 5 達成指標	アンケート等で現状把握ができている
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	アンケート等で把握した内容を現状に活かしている
2	40歳以下の利用者比率	R 4 実績	18% 発表会出演者を含む
		R 5 達成指標	アンケート等で全体の 20%を確認
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	アンケート等で全体の 30%を確認
		R 8 実績	—

ウ 使命1を達成するために重点的に取り組む事項

- ① 事業開催時等でアンケートを実施する。
- ② 利用者懇談会や利用相談等で意見を聴取する。
- ③ 上記で得た結果を解析し、利用者や事業参加者の現状・ニーズを把握して、職員間で共有する。

(2) 使命2 歴史的建造物の魅力を発信するとともに、文化芸術を媒介に地域の力を結びつける

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	建築物や地域の歴史・魅力を発信する事業数	4本	4本	—	—	—	5本	—
2	地域の施設・団体等と共に連携して実施する事業数	1本	1本	—	—	—	2本	—
3	長浜ホール賛同団体公募の実施	0	5団体	—	—	—	10団体	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	建築物について歴史的建造物としての適切な保存・管理	R 4 実績	見学者ノートで好意的な書き込み 70%
		R 5 達成指標	見学者ノートでの好意的な意見 80%以上
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	見学者ノートでの好意的な意見 80%以上
		R 8 実績	—
2	地域等の施設・団体等との連携状況のレポート	R 4 実績	生涯学習フェスティバル金沢区役所との共催 (ホール 11団体・ホワイエ 4団体・多目的ルーム 5団体)
		R 5 達成指標	1本
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	3本
		R 8 実績	—

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

- ① 建築物や地域の歴史・魅力を発信する事業を開催する(野口英世フェア、野口英世博士への手紙コンテスト、夏休みこども体験教室)。
- ② 地域の施設、団体と連携した事業を開催する(夏休みファミリーコンサート、生涯学習フェスティバル)。
- ③ 延期していた長浜ホール賛同団体の公募を開始する。

(3) 使命3 多様な市民の活動を支援するとともに、次世代を担う文化創造の担い手を育む

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	事業参加数に対する継続的な近隣住民の割合	75%	40%	—	—	—	50%	—
2	学校プログラムの実施数	3校	3校	—	—	—	4校	—
3	参加・体験型事業への総参加者数	80人	150人	—	—	—	200人	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績					
1	事業参加者、子どもたちや学校の定性分析	R 4 実績	学校プログラムによって音楽・芸術に興味を持った。・オペラを初めて目の前で聞いた・等身大の自画像を制作した・自分たちで作詞作曲した曲を卒業式で発表したという感想を得た。				
		R 5 達成指標	アンケート等に寄せられた感想等を通して特に子どもたちが文化芸術分野に興味を持った様子を把握できている				
		R 5 実績	—				
		R 6 実績	—				
		R 7 実績	—				
		R 8 達成指標	学校から文化芸術の体験やアウトリーチを望む声が長浜ホールに寄せられている				
2	事業参加者の交流の度合い	R 4 実績	ゴスペルワークショップ参加者同士の交流が深まり合唱にも良い影響が出ている 80%				
		R 5 達成指標	アンケート等で参加者同士の交流が深まったとの回答 50%				
		R 5 実績	—				
		R 6 実績	—				
		R 7 実績	—				
		R 8 達成指標	アンケート等で参加者同士の交流が深まったとの回答 80%				
		R 8 実績	—				

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

- ① 幅広い世代、年齢層が参加可能なワークショップ型の事業を企画し、実施する(ゴスペルコーラスワークショップ・キッズダンススクール4歳～9歳)。
- ② 近隣地域で活動中のアーチストによるコンサートを行い、活動を支援する(TABUNOKI ミュージックテラス・みず色の風コンサート)
- ③ 施設にゆかりのアーチストを小学校に紹介する学校プログラムにコーディネーターとして参画する。

(4) 使命4 利用者の視点に立ち、持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0	0件	—	—	—	0件	—
2	法定点検の実施率	100%	100%	—	—	—	100%	—
3	修繕予算の執行率	100%	90%	—	—	—	90%	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績						
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	R 4 実績	施設利用受付・終了時にヒアリング					
		R 5 達成指標	施設利用者へのアンケート回収時に利用者の協力を得られる場合はヒアリングを行っている。					
		R 5 実績	—					
		R 6 実績	—					
		R 7 実績	—					
		R 8 達成指標	施設の使用状況について利用者に行ったヒアリングの内容のうち必要と判断される案件に対し迅速に対応できている。					
2	管理運営費推移の要因分析	R 4 実績	光熱費の高騰や経年による修繕費の増加など不確定要素が多く毎月予算と実績の検証を行う					
		R 5 達成指標	年度ごとの仮決算で、予算と差異が生じた管理運営費すべてについて要因分析と改善策検討を行っている。					
		R 5 実績	—					
		R 6 実績	—					
		R 7 実績	—					
		R 8 達成指標	第四期指定管理期間の管理運営費の推移の中で変動のある科目について要因を分析し改善案を策定する。					
3	設備機器の予防保全のための施設巡回点検を行う	R 4 実績	毎月の定期点検と重要箇所は日々のチェック。					
		R 5 達成指標	毎月1回予防保全関連のスーパーバイザーによる施設巡回点検を職員立ち合いのもと行う。					
		R 5 実績	—					
		R 6 実績	—					
		R 7 実績	—					
		R 8 達成指標	第毎月1回予防保全関連のスーパーバイザーによる施設巡回点検により、利用者が快適に施設を使用できる状態を保つ。					
4	美観維持のための	R 4 実績	週3回室内外の清掃、年6回の清掃業者の作業。					
		R 5 達成指標	週3回の清掃員による清掃と年6回の清掃業者による作業、及び職員の日頃の清掃・点検により施設の美観が保たれている。					
		R 5 実績	—					
		R 6 実績	—					

	清掃	R 7 実績	—
		R 8 達成指標	施設の美観が保たれ、美観についてのクレームがゼロになる。
		R 8 実績	—
5	経費節減を意図した不具合対応	R 4 実績	軽微な不具合は職員による修繕を行っている。
		R 5 達成指標	施設の予防保全のための不具合箇所の早期発見
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	不具合箇所の早期発見が予防保全をもたらし経費節減につなげる。
		R 8 実績	—
6	長寿命化のための設備機器点検	R 4 実績	日々の点検と設備スタッフとのミーティングにより修繕箇所の順番を決め長いスパンで計画を立てる
		R 5 達成指標	設備等維持管理項目一覧に沿い、計画的な管理を行う。
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	計画的管理を行うことで施設の長寿命化が図られている。
		R 8 実績	—

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組む事項

- ① 施設使用状況について利用者からヒアリングを行い、必要な案件を整理する。
- ② 毎月1回のスーパーバイザーによる施設点検を、職員立ち合いのもと実施する。
- ③ 設備等維持管理項目一覧に沿い、計画的な管理を行う。

令和6年度 「横浜市長浜ホール」 収支予算書及び報告書

収入の部 (税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	37,891,914		37,891,914		37,891,914	横浜市より指定管理料
利用料金収入	7,160,000		7,160,000		7,160,000	
自主事業収入	1,990,000		1,990,000		1,990,000	ホール外事業・学校プログラムを含む
			0		0	
雑入	500,000	0	500,000	0	500,000	
印刷代			0		0	
自動販売機手数料	180,000		180,000		180,000	
			0		0	
その他(撮影料他)	320,000		320,000		320,000	
収入合計	47,541,914	0	47,541,914	0	47,541,914	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	23,694,914	0	23,694,914	0	23,694,914	
給与・賃金	23,694,914	0	23,694,914		23,694,914	共同事業体職員、パート職員給与
社会保険料			0		0	共同事業体各社にて出向者分を負担
通勤手当			0		0	上記に含む
健康診断費			0		0	共同事業体各社にて出向者分を負担
労働者福祉共済掛金			0		0	共同事業体各社にて出向者分を負担
退職給付引当金繰入額			0		0	共同事業体各社にて出向者分を負担
事務費	2,550,000	0	2,550,000	0	2,550,000	
旅費	95,000		95,000		95,000	
消耗品費	150,000		150,000		150,000	
会議賄い費	12,000		12,000		12,000	
印刷製本費	300,000		300,000		300,000	広報・宣伝費含む
通信費	570,000	0	570,000		570,000	ホームページ管理費含む
使用料及び賃借料	82,000	0	82,000	0	82,000	
横浜市への支払分	82,000		82,000		82,000	目的外使用料
その他			0		0	
備品購入費	400,000		400,000		400,000	
図書購入費	10,000		10,000		10,000	
施設賠償責任保険	35,000		35,000		35,000	
職員等研修費	10,000		10,000		10,000	
振込手数料	0		0		0	
リース料	876,000		876,000		876,000	令和5年実績より
手数料	0		0		0	
地域協力費	10,000		10,000		10,000	
事業費	2,500,000	0	2,500,000	0	2,500,000	
自主事業費	2,500,000		2,500,000		2,500,000	学校プログラム等経費を含む
			0		0	
管理費	17,898,000	0	17,898,000	0	17,898,000	
光熱水費	7,180,000	0	7,180,000	0	7,180,000	
電気料金	3,980,000	0	3,980,000		3,980,000	
ガス料金	2,400,000	0	2,400,000		2,400,000	
水道料金	800,000		800,000		800,000	
清掃費	4,432,000		4,432,000		4,432,000	
修繕費	1,700,000		1,700,000		1,700,000	
機械警備費	594,000		594,000		594,000	
設備保全費	3,992,000	0	3,992,000	0	3,992,000	
空調衛生設備保守	528,000		528,000		528,000	
消防設備保守	198,000		198,000		198,000	
電気設備保守	0		0		0	
害虫駆除清掃保守	150,000		150,000		150,000	
駐車場設備保全費	120,000		120,000		120,000	
その他保全費	2,996,000		2,996,000		2,996,000	舞台保守費含む
共益費	0		0		0	
公租公課	10,000	0	10,000	0	10,000	
事業所税	0		0		0	
消費税	0		0		0	
印紙税	10,000		10,000		10,000	
その他()	0		0		0	
事務経費(計算根拠を説明欄に記)	889,000	0	889,000	0	889,000	
本部分	889,000		889,000		889,000	本社費、所管課及び総務・人事・経理他関係費として計上
当該施設分			0		0	
支出合計	47,541,914	0	47,541,914	0	47,541,914	
差引	0	0	0	0	0	